

らくよう

楽しく 陽るく 荘全体で
お年寄りの人権を守ります。

その方らしい生活が出来るよう応援します。

最後までお世話させていただき準備が来ています。

特別養護老人ホーム楽陽荘 令和元年5月号 NO. 309

《ユニ・チャーム新人研修》

ユニ・チャーム株式会社様より、今年も4月3日から5日までの3日間53名の新入社員の皆様が3班に別れて楽陽荘へ研修に来られました。

新入社員の皆様が明るく大きな声で挨拶をされるだけで、園内がとてもしっかりになりました。お年寄りにも丁寧に優しくお話をされていました。柞田川河川敷にお花見にも行きました。お天気も良くキレイに咲いた桜の下で『キレイやなあ！今年も見えて良かったわあ！』などとお話ししながら、おやつを食べ、飲み物を飲んだりしながら楽しみました。



ユニ・チャームの皆様に歌や芸を見せて頂き、とても楽しいお花見になりました。



ユニ・チャーム新入社員の皆様と一緒に楽しい時間を過ごさせていただき、たくさんの若さと元気を分けてもらいました。

本当にありがとうございました。

また来年も新入社員の皆様とお花見に行けることを、お年寄り・職員一同楽しみにしています。

研修を終えたユニ・チャームの皆さんから感想文を頂きました。その中から、お二人ご紹介させていただきます。

【Oさん（女性）】

「高齢者がいつまでも自分らしく生きられる社会にしたい」この思いを胸にユニ・チャームへの入社を決めた。今日初めて現場を見学させていただき、自分が関わる商品がどれほど意義のあるものなのかを改めて感じる事ができた。男性の利用者さんがオムツを替えられている時に言った「こんな姿見られたくない」という言葉に胸が締め付けられたが、そこで終わらずに必ずこの実習をさせていただいた経験を仕事に繋げればと言う責任を感じた。受け答えが出来ない人への食事介助では、何が正解か分からない中ベストを尽くすことの難しさを知った。また、いつでも笑顔で接するスタッフさんを見て、介助する方とされる方の信頼関係があってこそ、私たちの商品が活きるのだと思った。身体が不自由でも、記憶を失っても、生活の質によって幸せに生きる事が出来る。その人と代わることは出来ないが、気持ちに寄り添うことは出来る。今日の実習を通して生まれた責任感を忘れず、常に自分事としてとらえて商品に向き合いたい。温かく迎え入れてくださった楽陽荘のスタッフの方々、利用者さん達に心から感謝します。本当に有難うございました。



【Aさん（男性）】

私は2Fで排泄介助、食事摂取の介助、お花見を担当させていただきました。楽陽荘さんでの介助はユニ・チャーム全体で3日目で既に同期から介助が大変であることはお聞きしておりました。しかし実際に施設で介助のお手伝いをさせていただき、単に介助は大変なだけでなく、そこには入居者様個人によって受け答えが困難である人や、半身が不全である人、暴れて暴力を振る方もいらっしゃり、心も身体も疲弊する非常に大変なお仕事でした。そんな状況の中でも、楽陽荘さんのスタッフの方々には常に入居者様方の立場に立ち考えていられる姿を見ました。例えばお花見では入居者様一人ひとりの好きな色を把握しておられ、その色に合わせた麦わら帽子を渡されていました。そのような相手の立場に立ち、入居者様方に尽くされるスタッフの方の姿勢を見て、ユニ・チャームが最も大事にする“尽くし続けてこそNo.1”という理念を初めて真の意味で理解できました。この貴重な体験を常に念頭に置き、オムツ商品を必要とされる方の立場に立ち続けることを忘れずに一人でも多くの消費者の手に渡すよう一生懸命頑張ります。最後に、何もわからないユニ・チャーム社員に対しとても親切に対応してくださり、誠にありがとうございました。

《編集後記》

令和元年初号！今年例年より桜の開花は早かったのですが戻り寒波で寒い日が続く、咲いてから散るまでの期間いつもより長く桜を楽しめました。季節の変わり目で寒暖差があり体調を崩しやすい時期でもあります。楽陽荘は4月で開園37周年となりました。お年寄り・職員一同、体調管理に十分気を付け毎日元気に過ごせる様より一層心掛けてまいります。 広報担当：荻田・藤田・香川